

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 JTMとくしま日本語ネットワーク

1. 事業名称 徳島で暮らす外国人のための日本語教育事業

2. 事業の目的

日本語の支援を必要とする外国人に、地域での生活に必要な日本語学習の場を提供し、彼らが徳島の地域性や文化・風習を理解し、まわりの人とうまくコミュニケーションをとりながら、社会の一員としていきいきとした生活が送れるよう、支援体制の充実をはかる。また、そのための指導者の人材を養成するとともに、日本の文化を理解してもらえる学習教材の開発を行う。

3. 事業内容の概要

仕事をしている人や学校へ通う子供も参加できる日曜日に、小グループ制の学習を中心とした教室を開講し、小学生から大人までニーズに合わせた学習の場を提供する。授業の一部に、子供だけの集合学習、子供と大人も一緒に参加する合同学習を取り入れることにより、互いに交流できる機会を設け彼らの居場所づくりとしての役割も担う。

「生活者としての外国人」に必要な日本語力やコミュニケーション力について学ぶとともに、対話型授業などで日本語力を向上させるノウハウや事例を学ぶ養成講座を開催し、多様な手法で指導できる人材を育成する。平成24年度に作成した保護者のための日本語教材「子どもと暮らすためのこんにちはとくしま」に出てくるトピックについて、日本の文化的知識を得てもらえるような副教材を開発する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 6月20日 19:00～ 21:00	2時間	徳島県労働福祉協議会 ミーティングルーム	ゲールツ三隅友子 兼松文子 辻暁子 玉置房 杜美智 長町順子	「日本語教育を行う人材の養成セミナー」について	1 目的 2 テーマ 3 全体の流れ 4 講師
2	平成25年 8月23日 18:00～ 20:00	2時間	徳島県労働福祉協議会 ミーティングルーム	岩見宮子 野水祥子 兼松文子 辻暁子 玉置房 杜美智 長町順子 山溝十糸子 村松幸子	徳島における日本語支援の現状と今後	1 日本語支援者の要請 2 教室運営
3	平成25年 9月6日 18:00～ 20:00	2時間	徳島県労働福祉協議会 ミーティングルーム	嶋田和子 兼松文子 辻暁子 玉置房 長町順子 杜美智 山溝十糸子	徳島における日本語支援の現状と今後	1教室のあり方 2 言葉の習得の仕方 3 学習者の思いに答える真の方法
4	平成25年 9月20日 18:30～ 20:30	2時間	徳島県労働福祉協議会 ミーティングルーム	ゲールツ三隅友子 兼松文子 辻暁子 玉置房 杜美智 長町順子 山溝十糸子 村松幸子	「日本語教育を行う人材の養成セミナー」「JTMにほんご教室」について	1 第1回～第4回までの報告 2 子供の部での美樹幹訪問の報告 3 第5回第6回セミナーの内容検討

5	平成25年 10月12日 11:00～ 12:00	1時間	徳島県労働福 祉協議会 ミー ティングルーム	牧野昭子 兼松文子 山溝十糸子 村松幸子 長町順子 加村匡子 玉置房 辻暁子 杜美智	【日本語教育を行う人材の養成セミナー】について	1 JTMの活動実績の報告 2 第1回～第6回までの報 告 3 第7回セミナーの内 容検討
6	平成25年 12月7日 11:00～ 12:00	1時間	徳島県労働福 祉協議会 ミー ティングルーム	竹田悦子 兼松文子 玉置房 杜美智 長町順子 山溝十糸子 村松幸子 加村匡子	「日本語教育を行う人材の養成セミナー」について	1 第1回～第7回までの報 告 2 第8回セミナーの内 容検討

5. 日本語教室の実施

(1) 講座名称 JTMIにほんご教室

(2) 目的・目標

日本語の支援を必要とする外国人に、地域での生活に必要な日本語学習の場を提供し社会の一員としていきいきとした生活が送れるよう支援する。

(3) 対象者 日本語の支援を必要とする外国人または外国につながる子供

(4) 開催時間数(回数) 60 時間 (全39回)

(5) 使用した教材・リソース

日本語学級、ひろこさんのたのしいにほんご、こんにちはとくしま、子どもとくらすためのこんにちはとくしま、みんなのにほんごシリーズ、新日本語の中級、にほんごこれだけ、できる日本語、カリキュラム案 自作プリント、絵カード、写真ほか

(6) 受講者の総数 53 人

(出身・国籍別内訳) モンゴル 11人、ベトナム 3人、中国 16人、バングラディッシュ 1人、フィリピン 5人、インドネシア 9人、エジプト 3人 アメリカ 5人

(7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 5月19日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	7人	フィリピン (1) イ ンドネ シア (3)中 国 (2) エジ プト(1)	日課・過去にしたこと について話す・発 表する	毎日すること・昨日したことをスケ ジュール表に記入し、「それから・～ から…まで」などを使って発表した。	谷口真弓	(6人)木内ひ ろみ 鴻野雅 樹 中野佳 代子 松家 久美 森清 山溝十糸子
2	平成25年 5月26日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピアロビー	9人	アメリカ(1) フィリピン (1) イ ンドネ シア (3)中 国 (4)	動物の名前当てク イズ	インドネシアの絵の得意な参加者の 一人に動物の絵を描いてもらい、参 加者全員で途中、分かり次第の名前 の当てっこを楽しむ(20種類)	森 清	(8人)岡久美 鴻野雅樹 高 木八重子 谷 口真弓 中野 佳代子 村 松幸子 杜美 智 吉田尚子
3	平成25年 6月2日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	5人	フィリピン (1) 中国 (3) エジ プト(1)	身近な病気	病気やけがの名前、症状、対処法を 話し合う。	森井哲也	(3人) 森清 山溝十糸子 吉田尚子
4	平成25年 6月9日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	6人	アメリカ(1) フィリピン (1) イ ンドネ シア (2)中 国 (2)	病院へ行って症状 が言えるようになろ う	病院に関係のある言葉や症状を伝え る言い方を学習した後、薬を飲むとき の注意点を説明した	中野佳代子	(5人)村松幸 子 木内ひろ み 森清 松 家久美 谷口 真弓
5	平成25年 6月16日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	5人	インドネシ ア(2)中国 (3)	体温測定を實際に して平熱を知る。薬 の種類を知る	自分の平熱を知るために体温計で測 定し、そのあと温度について話した。 また実物の薬を見せどのような時に 利用するかを学習した。	村松幸子	(4人)木内ひ ろみ 山溝十 糸子 高木八 重子 長町順 子

6	平成25年 6月23日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	6人	アメリカ(1) エジプト(1) インドネシ ア(2)中国 (2)	身体の部位と痛み の表し方	絵カード、字カードを使って、身体 の部位と文字と読みを一致させた後、 参加者を患者に見立てて、容態を尋 ねる練習をした。	長町順子	(5人)木内ひ ろみ 鴻野雅 樹 谷口真弓 中野佳代子 森清
7	平成25年 6月30日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	8人	アメリカ(4) 中国(2) モンゴル (1) インド ネシア(1)	名画に触れよう	名画を観て形容詞を使って感想を述 べる	木内ひろみ	(7人)鴻野雅 樹 谷口真弓 玉置房 長町 順子 松家久 美 森清 杜 美智
8	平成25年 7月7日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	6人	アメリカ(2) 中国(2) インドネシ ア(1)	七夕	「七夕」「短冊」などの感じカードの読 み方をクイズ形式で出し、願い事を 短冊に書き、飾りを作成し、笹に飾っ た。	長町順子	(4人) 木内 ひろみ 高木 八重子 杜美 智 森清
			トピアロビー	5人	モンゴル (2) ベトナム (2) バングラ ディシュ(1)	初)自己紹介 初中)自己紹介が できる	初)初めて会った人に自分の名前、 仕事、趣味を紹介する。 初中)「申します・参ります」を使って 自己紹介の練習をする	辻 暁子	加村 匡子
9	平成25年 7月14日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	8人	アメリカ(3) 中国(1) インドネシ ア(4)	あなたの好き な絵はどれ	画集から有名な絵をコピーして見せ 感想を言ってもらい好きな絵に～賞 をつけてもらう	村松幸子	(7人)木内ひ ろみ 鴻野雅 樹 杉本恵 玉置房 中野 佳代子 森清 吉田尚子
				3人	インドネシ ア(1) 中国(1) フィリピン(1)	初中)趣味や日本 の生活について話 すことができる	初中)「～のが好きです・大変です」 の練習をする	加村 匡子	辻 暁子
10	平成25年 7月21日 13:30～ 16:30	3.0時間	美術館	11人	アメリカ(2) 中国(4) インドネシ ア(1) モ ンゴル(4)	美術館を訪問して ワークショップに参 加する	公共バスに乗り県立美術館まで行 く。展示室で美術館職員の指導を受 けその後学芸員さんのワークショップ を受ける。自分の感じたことを発表す る	杜 美智	(10人)岡久 美 木内ひろ み 高木八重 子 谷口真弓 玉置房 松家 久美 村松幸 子 森清 森 清
		1.5時間	トピア小会議室	3人	モンゴル (1) 中国(2)	初)買い物をする 初中)情報をもとに 買い物をする	初)店に行って、自分が買いたいもの を買い求めることができる。 初中)メニューやチラシの言葉の意味 を理解して使えるようになる	辻 暁子	相田 奈美
11	平成25年 7月28日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピアロビー	4人	モンゴル (3) 中 国(1)	初)簡単な自己紹 介ができる 初中)買い物や予 約ができる	初)イラストを使い出身国、仕事、趣 味をいう練習をする 初中)クーポンなどで買い物や予約 ができる	玉置 房	相田 奈美
12	平成25年 8月4日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピアロビー	2人	モンゴル (1) 中 国(1)	初)自己紹介ができ る 初中)注 文するメニューにつ いて質問することが できる	初)月日を学び、自己紹介で自分の 誕生日が言える練習をする 初中)日本の食文化について学ぶ ことができる	玉置 房	辻 暁子

13	平成25年 8月18日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	8人	アメリカ(3) 中国(2) モンゴル (2) エジ プト(1)	夏休みの活動報告	夏休みの活動報告をしてもらう	森井哲也	(7人) 岡久 美 木内ひろ み 杉本恵 中野佳代子 松家久美 村 松幸子 森清
			トピアロビー	3人	モンゴル (3)	ゼロレベル)簡単な 挨拶ができる 初級)相手のことを 聞いたり、身近なこ とを話したりできる	ゼロレベル)簡単な挨拶、相手に自 分の名前を言う練習をする 初級)「～から～まで」「～で～をす る」の練習をする	加村 匡子	玉置 房
14	平成25年 8月25日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	6人	アメリカ(3) 中国(1) モンゴル (1) エジ プト(1) エジプト(1)	新聞を読もう	子供新聞の好きな記事を読み、感想 を述べる。	山溝十糸子	(5人) 木内 ひろみ 高木 八重子 谷口 真弓 中野佳 代子 松家久 美
				2人	モンゴル (1) 中 国(1)	初級)自分のことを 話すことができる 初中)自国の食文 化を考える	初級)「わたしは～です」の練習を する 初中)自国の食文化について文章を 書く	加村 匡子	玉置 房
15	平成25年 9月1日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	4人	インドネシ ア(1) 中国(2) モンゴル (1)	糸電話での会話を 楽しむ	糸電話の作り方を知り電話の会話を する	木内ひろみ	(2人)森清 森井哲也
			トピアロビー	2人	モンゴル (1) 中 国(1)	初)自己紹介ができ る 初中)自国の食文 化の口頭発表をす る	初)出身や職業、趣味などの自己紹 介ができる 初中)既習の文型を使い自国の食文 化を紹介する	相田 奈美	玉置 房
16	平成25年 9月8日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	11人	アメリカ(4) モンゴル (2) イ ンドネシア (2)中国 (2) エジプト(1)	台風について学習 する	台風が発生している天気図を使って 台風を学習した後、台風による被害 について説明する	中野佳代子	(7人)杉本恵 谷口真弓 長 町順子 松家 久美 杜美智 山溝十糸子 森清
				6人	モンゴル (3) ベ トナム(2) 中国(1)	初)自分の国の紹 介 初中)自分の目標 や計画について話 すことができる	初)自己紹介と自分の国のことが話 せるようになる 初中)意向形の練習をする	相田 奈美	加村 匡子
17	平成25年 9月15日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	5人	アメリカ(3) モンゴル (1) イ ンドネシア (1)	地震から身を守る	防災アンドブックを使い地震について	鴻野雅樹	(3人)谷口真 弓 中野佳代 子 村松幸子
			トピアロビー	2人	モンゴル (1) 中 国(1)	初)身近なことが言 える 初中) これからの予定が 言える	初)公共機関に休みなどが聞けるよ うに練習する 初中)初中)「Vるつもりです」を使っ て 予定を言う練習をする	辻 暁子	加村 匡子
18	平成25年 9月22日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	5人	インドネシア (2)中国 (2) エジプト(1)	地震がきたらどうす る	防災センターの資料を見ながら地震 についての知識を深める	松家久美	(3人)谷口真 弓 長町順子 森清

				2人	インドネシア(1) 中国(1)	初)休日にしたこと 初中)自分の将来 のことで興味がある ことが言える	初)休日にしたことについて聞いたり、説明したりすることができる。 初中)「Vるつもりです」を使って予定を言う練習をする	辻 暁子	相田 奈美
19	平成25年 9月29日 13:30~ 15:00	1.5時間	トピアロビー	6人	アメリカ(1) モンゴル (1) イ ンドネシア (2)中国 (1) エジプト(1)	非難生活に必要な もの	地震が起きた時すぐとらなければい けない行動と少し時間が経ってから の行動をイラストを使って学習する	西川翔吾	(5人)岡久美 長町順子 松家久美 村 松幸子 森清
			シビックセン ター	2人	モンゴル (2)	初)休みの日の感 想を話したり、質問 したりできる	初)「Vました、ませんでした、どこへ いきましたか」を練習する	相田 奈美	玉置 房
20	平成25年 10月6日 13:30~ 15:00	1.5時間	ひょうたん島 クルーズ後 トピア大会議室	13人	インドネシ ア(4)アメリ カ(3) エ ジプト(3) 中国(2) モンゴル (1)	ひょうたん島クルー ズ体験	ひょうたん島クルーズにより水都徳島 を体験する。後、ひょうたん島関係の クイズ大会をする。徳島を知ろうの一 環	森 清	(10人)木内 ひろみ 鴻野 雅樹 杉本 恵 中野佳代 子 長町順子 松家久美 村 松幸子 杜美 智
			ひょうたん島 クルーズ後 トピアロビー	3人	インドネシ ア(1) 中 国(1) モンゴル (1)	ひょうたん島クルー ズ体験	初・初中)クルーズ中に見た景色から 徳島のことを学ぶ。運動会の季節な ので、競技種目等の名称を学ぶ	玉置 房	辻 暁子
21	平成25年 10月13日 13:30~ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	5人	アメリカ(2) インドネシ ア(2)中国 (1)	徳島の特産品	徳島ならではの食べ物を紹介し特産 品のスタチレンコンなどの断面図を 描く	杜 美智	(3人)谷口真 弓 中野佳代 子 山溝十糸 子
			トピアロビー	2人	中国(1) モンゴル (1)	初)休みの日の感 想を話したり、質問 したりできる 初中)将来の夢に ついて周りの人に 話すことができる	初)形容詞の活用を学び、自分の感 想を言う練習する 初中)「Vなければなりません」をイラ スト使い練習する	加村 匡子	相田 奈美
22	平成25年 10月20日 13:30~ 15:00	1.5時間	トピアロビー	6人	モンゴル (1) イ ンドネシア (2)中国 (1) エジプト(2)	徳島の名所 阿波 の民話	徳島の写真パネルで名所紹介をしそ のあと阿波の民話を読み聞かせをす る	岡 久美	(5人)木内ひ ろみ 杉本恵 高木八重子 村松幸子 森 清
			シビックセン ター	2人	中国(1) モンゴル (1)	初)自分のことを話 したり、相手に質問 したりできる	初)「Nがほしいです、~が好きです、 ~が上手です」言う練習する	加村 匡子	玉置 房
23	平成25年 10月27日 13:30~ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	7人	インドネシ ア(2)中国 (3) エジプト(2)	お話を作ろう	徳島のおいしいもの、有名な観光地 について、写真パネルを見ながら、話 を聞いた後、各自支援者と一緒にお 話を作り、発表。	長町順子	(5人)杜美智 森井哲也 森 清 岡久美 谷口真弓
			トピアロビー	2人	中国(2)	初)自己紹介ができ る 初中)住んでいる町 の施設や店の情報 を聞いたり伝えたり することができる	初)出身地や職業、家族の紹介がで きるようになる 初中)「~なら、~がいい」の練習を する	相田 奈美	加村 匡子

24	平成25年 11月3日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	6人	モンゴル (1) 中 国(3) エジプト(2)	美術創作	絵や小物をコラージュして発表する。	森井哲也	<4人>鴻野雅 樹 中野佳代 子 森清 山 溝十糸子
				4人	中国(2) エジプト(1) モンゴル (1)	初)今の生活につ いて話したり質問し たりすることができる 初中)道を尋ねたり、 説明したりすること ができる。	初)イラストで「～ま せん、～よろしくな いかな」等を使う練習 をする 初中)「どうやって行 ったらいですか」 「～と、～があります」 等を使って、道を尋 ねたり、説明したりす る練習をする。	玉置 房	辻 暁子
25	平成25年 11月10日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	7人	アメリカ(3) 中国(2) エジプト(2)	色 秋の木・実 秋の歌	色を混ぜ合わせてい る色々な色を作り、 秋の木を描いた。ま た秋の歌を覚えて振 りを付けてうたいな がら踊った。	谷口真弓	(5人)杉本 恵 中野佳代 子 長町順子 村 松幸子 森清
			トピアロビー	2人	エジプト(1) 中国(1)	初)友達の意向を 聞いたり情報を比 べたりすることができる 初中)突然のハ プニングにあったと き事情説明ができ	初)「～がいちばん です」「～と～とど ちらが～」を使う練習 をする 初中)「～てしま いました」の練習を する	玉置 房	加村 匡子
26	平成25年 11月17日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	6人	アメリカ(3) インドネシ ア(1)中国 (2)	名画との合作を楽 しむ	名画を土台にして思 い思いに描き表現 する	木内ひろみ	(5人)杉本 恵 谷口真弓 森 清 杜美智 山 溝十糸子
				2人	エジプト(1) 中国(1)	初)友達の意向を 聞いたり情報を比 べたりすることができる 初中)どこへ旅行に 行きたいか理由と共 に提案することができ	初)「～がいちばん です」「～と～とど ちらが～」を使う練習 をする 初中)「Vましょ うか、～のほすです」 をイラストを使って学 習する	玉置 房	相田 奈美
27	平成25年 11月24日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	6人	インドネシ ア(2)中国 (2) エジプト(2)	子どもと芸術を楽 しむ	日本の昔話を読んで 野菜や果物を紙粘土 で表現する	村松幸子	(5人)高木八 重子 長町順子 森 清 森井哲也 山 溝十糸子
			トピアロビー	2人	エジプト(1) 中国(1)	初級)行きたい場所 や自分のいる場所を 説明できる 初中)学校行事につ いて話す	初級)「～は～にあ る・いる」の練習を する 初中)学校行事や道 具、必要なものを 言葉と絵を見ながら 理解する	加村 匡子	相田 奈美
28	平成25年 12月1日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	6人	インドネシ ア(3)中国 (1) エジプト(2)	日本の年末 年始	カレンダーを見なが ら一年を振り返る。 十二支についての昔 話を聞く。	森井哲也	(5人)木内ひ ろみ 鴻野雅樹 杉 本恵 谷口真弓 中 野佳代子
			トピアロビー	2人	エジプト(1) 中国(1)	初)パーティの準備	初)パーティの準備 の場面で、「～てくだ さい」を使って他者 にお願いをすることが できる。	辻 暁子	玉置 房
29	平成25年 12月8日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	5人	インドネシ ア(1)中国 (2) エジプト(2)	日本の年末 年始	年末年始のお話・七 福神ものがたり「え びすさんと6人のな かまたち」の絵本読 み聞かせ	森 清	(3人)谷口真 弓 長町順子 山 溝十糸子

				4人	中国(3) エジプト(1)	初)家族や友達の人 数や住んでいる ところについて話 すことができる 初中)誘いを断る	初)「～に住んでい ます」「～が何人 います」を使う練 習をする 初中)理由を言い 相手を不快にさ せないように言 う練習をする	加村 匡子	玉置 房
30	平成25年 12月15日 13:30～ 15:00	1.5時 間	トピアロビー	8人	インドネシ ア(3)中国 (1) エジプト(3) モンゴル (1)	年末年始に関係の ある言葉	年末年始に関係のある言葉を使っ て、クロスワードパズル様の物を作 り、子ども達に文字を入れてもらう	中野佳代子	(4人)杉本恵 高木八重子 森井哲也 森 清
			シビックセン ター	3人	中国(3)	初)自分の家族の 仕事について話 すことができる 初中)診察	初)家族についてクラスメイトを話 す 初中)子どもを病院へ連れて行って 診察を受けさせることができる。	加村 匡子	辻 暁子
31	平成25年 12月22日 13:30～ 15:00	1.5時 間	トピア大会議室	6人	モンゴル (1) 中 国(3) エジプト(2)	日本の遊びいろ いろ	副笑・おはじき・ビー玉・紙風船・毬 ・ケン玉・めんこ・お手玉を歌や簡 単な掛け声・ことばとともに楽し んだ。	谷口真弓	(4人)村松幸 子 森清 杜 美智 山溝十 糸子
				5人	エジプト(1) 中国(4)	初)家族や友達が どんな人かを話 すことができる 初中)訪問	初)「～さんは～が 上手です」「～さん は～な人です」の 表現を練習する 初中)子どもの学 校の保護者の家 を訪問し、スム ーズなやりとり ができるように なる。	加村 匡子	辻 暁子
32	平成26年 1月12日 13:30～ 15:00	1.5時 間	トピア大会議室	6人	インドネシ ア(1)中国 (4) エジプト(1)	日本のお正月と書 初め	日本のお正月について、絵カード やレリアアで知り、その後、書初 めを楽しむ	山溝十糸子	(5人)谷口真 弓 杉本恵 鴻野雅樹 森清 木内ひ ろみ
				2人	中国(2)	初)やりもらいの理 解と練習 初中)わからないこ とについて尋ねる ことができる	初)「あげる・もら う・くれる」の違 いを理解し、正し く使えるようになる 初中)「～という のはどういうこと ですか」の練習を する	相田 奈美	加村 匡子
33	平成26年 1月19日 13:30～ 15:00	1.5時 間	トピア小会議室	7人	インドネシ ア(2)中国 (4) エジプト(1)	絵文字の話	字遊び(カード作り)絵文字の学 習 8個の絵文字を描いてもらいそ れからできた漢字を当てる	杉本 恵	(6人)木内ひ ろみ 鴻野雅 樹 谷口真弓 中野佳代子 長町順子 森 清
			トピアロビー	2人	中国(2)	初)あいさつ、読み 初中)理由を説明 して相談すること ができる	初)基本的なあい さつ、かなの読み 、数字の読み 初中)小学校のお たよりを読む(給 食試食会・卒業 式)	辻 暁子	加村 匡子
34	平成26年 1月26日 13:30～ 15:00	1.5時 間	トピア大会議室	7人	インドネシ ア(4)中国 (3)	かるた遊び	カルタの遊び方を知り、自分たち で、カルタの絵カードや、字カ ードを作成する	長町順子	(6人)岡久 美 木内ひろ み 中野佳代 子 杜美智 山溝十糸子 吉田尚子
				4人	インドネシ ア(2) 中国(2)	初)趣味 初中)先生に相談 をする	初)「～ことです」 を使って、自分の 趣味について説明 することができる 初中)電話や三者 面談などで先生 に相談するとき の言い方やフレー ズが使える	相田 奈美	辻 暁子

35	平成26年 2月2日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	5人	インドネシア(1)中国(2) エジプト(2)	絵カードで店の紹介	絵カードで店を紹介し、さまざまな会話を する。	森井哲也	(4人)鴻野雅樹 杉本恵 中野佳代子 森清
			トピアロビー	3人	中国(3)	初)ポスターやチラシをみてできること できないことを言う ことができる	初)動詞のグループ分けを練習後、 「～すること」を使う練習をする	玉置 房	相田 奈美
36	平成26年 2月9日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	7人	インドネシア(1)中国(3) エジプト(2) モンゴル(1)	学校ごっこを楽しむ	年齢の大きい子どもが先生役になり 簡単な授業をする。	木内ひろみ	(5人)鴻野雅樹 中野佳代子 森清 森井哲也 山溝 十糸子
				4人	中国(2) インドネシア(2)	初)ポスターやチラシをみてできること できないことを言う ことができる 初中級)尊敬語を 使って相談すること ができる	初)動詞の辞書形を作る練習し、「～ するこ」を使う練習をする 初中級)「お～する・お～になる」の練 習をする。「ちょっと」のいろいろな意 味について学ぶ	玉置 房	加村 匡子
37	平成26年 2月16日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	11人	アメリカ(4) 中国(5) エジプト(2)	県立城東高校外語 部の学生との交流	高校生10名が参加して子供の年齢 で二つのグループに分けゲームやク イズ、フリートーキングで交流する	杜 美智	(5人)谷口真弓 玉置房 長町順子 森清 森井哲也 玉置房
				トピアロビー	4人	中国(4)	初)休日にしたこと 初中)自分の将来 のことで興味がある ことが言える尊敬 語・謙讓語を使って 話すことができる	初)「～て、～て、ます」を使って、休 日にしたことを順を追って話すことが できる。 初中)尊敬動詞の作り方・特別な尊 敬語や謙讓語の練習をする	辻 暁子
38	平成26年 2月23日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア大会議室	5人	インドネシア(1)中国(1) アメリカ(3)	家庭での仕事を考え	写真教材を見て語彙を学習する	中野佳代子	(3人)森清 杜美智 吉田 尚子
				2人	中国(2)	初)集合場所への 行き方を電話で聞 いて理解できる 初中)幼稚園まで の道順を説明する ことができる	初)「もう、Vましたか/また、Vてませ ん」を使って、回りの状況を説明する 練習をする 初中)「～すると～があります」「～分 もかからない」の表現を練習する	加村 匡子	玉置 房
39	平成26年 3月2日 13:30～ 15:00	1.5時間	トピア小会議室	5人	インドネシア(1)中国(3) エジプト(1)	日本の昔話を楽しむ	桜について知る。桜の花びらを作る。 読み聞かせ「花さか爺さん」	山溝十糸子	(4人)長町順子 杜美智 杉本恵 中野 佳代子
				トピアロビー	2人	中国(2)	初)公共の場所での 注意を聞きとったり 許可を求めたりする 初中)学校のおたよ りを読み 正しく理解すること ができる	初)「てもいいですか」「ないくださ い」でお願いや許可の表現を練習する 初中)「授業参観・学級懇談会」「家庭 訪問」がどのようなものかを学ぶ。	相田 奈美

(8) 受講者の募集方法

日本語・中国語・英語のチラシを作成し、「にほんご寺子屋」の受講者に継続受講を勧めた。JTMのホームページに掲載した。JTM会員を通じて、知り合いの外国人や既存の日本語講座(就職・介護)の受講生に周知した。県および市教育委員会に周知の協力を要請をした。各国際交流団体に、関係する外国人への周知要請をした。とくしま国際戦略センター等、公共施設のロビーにてチラシの配布、掲示を行った。

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

子供教室

とくしま国際戦略センター(トピア)の会議室で行なった。個別学習の時間と全体学習の時間を設け、それぞれのニーズに合う日本語学習をマンツーマンで行ない、そのあと、日本人の子供が幼少から身につけてきた日本文化・習慣そして地域で安全に暮らす心得を習得できるように一同で学んだ。特に季節の行事を取り入れ体験学習に力を入れた。また、地域の公共施設や文化施設を訪問し生活に必要なサービスを受ける方法を知ることや、文化や徳島の観光地に触れる機会を持った。



大人教室

とくしま国際戦略センター(トピア)で行なった。初級のグループと中級のグループに分かれ、大会議室が使用できるときには、子供が学習している傍らで大人も学習した。子供にとって自分の親が学習しているのを見ることは、子供が大人に対して、敬意を表すよい機会となったように見受けられた。大会議室が使用できないときには、ロビーでグループ別に大きなテーブルを囲み行なった。そうすることで、学習者が構えることなく発話できる雰囲気を作り、また学習者どうし、お互いにコミュニケーションがとりやすいようにした。教師は、絵カード、写真等を多く使い分かりやすい授業を心がけた。初級のグループでは日常生活で必ず遭遇するであろう場面を中心に学んだ。中級のグループでは当初は日常遭遇する場面を設定し学習していたが、途中から昨年度作成した「子どもと暮らすためのこんにちとはとくしま」を使い、日常耳にすることが少ないが、理解できないと困る学校に関する場面や言葉を学んだ。



(10) 目標の達成状況・成果

子供教室

個別学習では来日間もない子供には文字の習得から始まり、日常使う簡単な言葉でコミュニケーションをとる練習をしたことで、学校や地域で自分の言いたいことが少しずつではあるが伝えられるようになっていく。また、ある程度話せる子供には、友達と話す言葉や先生や大人の人との言葉使いの違いを身につけたり、公共の場での表示や案内板が理解できるようになり、必要な情報を知ることができるようになった。

今年は特に挨拶が言えるようになることを目指し、支援者が常に心がけた。次第に、始まりや終わりの挨拶が自然に出てくるようになり、人と関わる第一歩を習得することができた。読み聞かせや季節の行事を全体学習で取り組むことで日本文化を楽しみながら知り、知識や興味を深めることができた。美術館の訪問では学芸員さんの仕事を知ったり、美術作品の鑑賞をして日本語で自分の感じたことを発表することができた。往復の公共バス利用に際しては時刻表や行き先の見方、バスの運賃の払い方など実際に体験することができた。日本語が上手に話せずには消極的であった子供が日本の生活文化を知り言葉を習得するにつれ本来の性格を伸び伸びと出せるようになってきた。

大人教室

今回、初級のグループは、来日1年未満の学習者がほとんどで、自己紹介の言い方から始め、生活に必要な基本的な日本語の習得に終始した。開始時は、言葉を発するのも小さな声でためらいがちだったが、回を重ねるごとに自信が付き、日常、困っていることを積極的に日本語で話せるようになった。日本語習得の面白さを体験したことで、このプログラムの終了を惜しんでくれた。また、学習者によっては継続の希望が強く、他の日本語教室の紹介なども行なった。

初中級のグループでは、学校に通っている子供を持つ親が多く、途中から昨年度作成した教材「子どもと暮らすためのこんにちはとくしま」を使用した。母国での常識から外れたことや、今まで知らなかった日本の学校事情を知り驚いていた。例えばインフルエンザにかかったら病院に行き、学校は必ず決まった期間休ませること、給食があり、子供たちが給仕すること、子供たちが教室の清掃をすることなどである。この驚きや学びが学習者にとって、日本の学校教員やまわりの人々と円滑暮らしていく上で重要になっていくのだと思う。学習者からは「子供から、日常的にいろいろな学校に関することを質問されるが、答えることが出来ないし、どこで、誰に聞いたら良いか分からなかったが、この教室で聞くことができるので嬉しい。」という声が聞けた。また、就学前の子供を持つ親も、日本の学校を知ることによって抱えている不安を和らげることが出来たようだ。

(11) 改善点について

子供教室

子供の日本語習得度や年齢幅が大きいため全体学習の焦点を定めるのが難しかった。月テーマを決めて取り組んだことで、うまくいく月とテーマに縛られて単調になることもあった。今後は参加する子供の状況である程度柔軟に取り組めるような準備が必要ではないかと感じた。スタッフは積極的に参加してくれる人が多く十分であったが、子供の参加にムラがあり対応に苦慮をした。継続して来なくなる教室をこれからも工夫して作っていかねばならないと思った。

大人教室

今回は、昨年度のような小さい子供を持つ親のための託児を設け、子供を持つ保護者を対象とした教室ではなく、日常会話中心の教室を考えた。しかし、昨年度の受講生から、昨年度のプログラム「日本語教育のための学習教材」で作成した学校での場面シラバスで構成されている「子どもと暮らすためのこんにちはとくしま」を使用してほしいと要望があり、途中で変更することになった。学習者達の意欲は上がったが、十分な回数の学習ができなかった。昨年度の教室で日本の学校に関する学習のニーズは感じていたが、昨年度は参加者が少なかったため、当初の日常会話中心のシラバスに決めた。しかし、ニーズの調査が不十分で、途中変更を余儀なくされた。シラバスを考える上で、学習者のニーズ調査は最も力を入れなければいけないことだと改めて反省した。

次に、託児が必要で、子供を預けることができない学習者は参加することができなかった。無理に連れてきた学習者もいたが、たびたび中断されることに本人は他の学習者に気を遣い、また他の学習者も集中できないようだった。託児は費用がかかり、場所の確保が難しいため教室運営には大きな負担となる。それでも、昨年度は小さい子供を持つ親のために託児も設けたが、学習者の申し込みが少なかった。この結果を踏まえて、今年は託児は設けないということにした。子供が居るから通えないと訴える学習者を目の当たりにすると、やはり託児に関しては引き続き考えていかなければならない課題だと感じた。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称 日本語指導者養成セミナー
- (2) 目的・目標 新たに日本語支援に関わろうとしている人の人材開発や、すでに関わっている人のブラッシュアップを目指す
- (3) 対象者 日本語指導・支援の経験者、日本語支援に関心がある人、学校教員および退職教員、JTMとくしま会員
- (4) 開催時間数(回数) 30 時間 (全 10 回)
- (5) 使用した教材・リソース 講師ハンドアウト CD DVD 『標準的なカリキュラム案』『活用のためのガイドブック』『教材例集』『日本語能力評価』『できる日本語』『みんなの日本語』
- (6) 受講者の総数 40 人
(出身・国籍別内訳 日本 40人)
- (7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 8月24日 9:00～ 12:00	3時間	ヒューマンワー くびあ徳島	30人	日本(30人)	「生活者としての外国人」のための日本語教育が目指すもの	日本国内の日本語教育の現状と変化の講義。文化審議会国語分科会の成果物「標準的なカリキュラム案」「活用のためのガイドブック」「教材例集」ETC紹介。	岩見宮子	なし
2	平成25年 8月24日 13:00～1 6:00	3時間	ヒューマンワー くびあ徳島	28人	日本(28人)	「生活者としての外国人」のための日本語教育の実践	指導方法のポイント、活動紹介を話した後、「カリキュラム案」を参考にプログラムを作る。	岩見宮子	なし
3	平成25年 9月7日 9:00～ 12:00	3時間	ヒューマンワー くびあ徳島	28人	日本(28人)	学習者の発話を引き出す教室活動を目指そう	実際の場面を設定をした具体的な授業事例を紹介	嶋田和子	なし
4	平成25年 9月7日 13:00～ 16:00	3時間	ヒューマンワー くびあ徳島	29人	日本(29人)	教材をいかす力を養おう！～『できる日本語』を使って	「できる日本語」シリーズを題材に、発話を引き出す授業を考える	嶋田和子	なし
5	平成25年 9月21日 9:00～ 12:00	3時間	ヒューマンワー くびあ徳島	33人	日本(33人)	日本語支援のための異文化理解と外国語としての日本語	美術鑑賞の授業などを通して、言語を使わずにコミュニケーションすること、互いの文化を尊重することなどについて考える	ゲールツ三 隅友子	なし
6	平成25年 9月21日 13:00～ 16:00	3時間	ヒューマンワー くびあ徳島	34人	日本(34人)	学習者のレベルや目的に合わせた学習方法	徳島大学の授業紹介と日本語教育と文化スキーマというテーマで多文化共生を目指した日本語教育を考えるきっかけを得る	ゲールツ三 隅友子	なし
7	平成25年 10月12日 13:00～ 16:00	3時間	ヒューマンワー くびあ徳島	32人	日本(32人)	「やさしい日本語」を考える～外国人に通じる日本語とは	やさしい日本語とはどんなものかということ、外国人と話すためのやさしい日本語の具体的な例	牧野昭子	なし
8	平成25年 12月7日 13:00～ 16:00	3時間	ヒューマンワー くびあ徳島	33人	日本(33人)	日本語支援者のための音声指導の工夫	音声指導をすることについての支援者の姿勢を考えることと、具体的な音声指導の実践	竹田悦子	なし
9	平成25年 12月14日 9:00～ 12:00	3時間	ヒューマンワー くびあ徳島	21人	日本(21人)	徳島で暮らす外国人のための日本語支援を考える～JTMとくしまの取り組みからその1	3～4人のグループで、場面設定を考え、指導案を作成し、5分間のデモ授業を行う。	なし	兼松文子 辻 暁子 玉置房 山溝十糸子 加村匡子 杜 美智 森清 長町順子
10	平成25年 12月14日 13:00～ 16:00	3時間	ヒューマンワー くびあ徳島	19人	日本(19人)	徳島で暮らす外国人のための日本語支援を考える～吉野川市『国際交流協会の取り組みから～JTMとくしまの取り組みからその2	吉野川国際交流協会の今までの取り組みの紹介と今後についての話。JTMの今までの取り組みと会長の思いを話し、参加者全員がこれからやりたいことを発表する	瀬尾規子 兼松文子	なし

(8) 受講者の募集方法

徳島県や徳島市の教育委員会、各地域の国際交流協会に後援を依頼し、チラシ作成後、後援の許可のあった団体にチラシを配布し募集のお願いをしたり、地元新聞の情報欄に掲載依頼を行った。

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

第3回 「あそこに佐藤さんがいます」という文型をどのような場面でどう使うかを4人ごとのグループで考えた。元の文型に「あ！」という驚きの言葉が加わることによって、文型に息が吹きこまれ、学習者が「場面にあった使える日本語を学ぶことができる」環境が整うことを学んだ。こうした例から、支援者も学習者もわくわくする授業とはどんなものかと言うことを感じる事ができ、場面設定することの重要性を知った。

第9回 あらかじめ用意された場面設定で、8分間の授業展開を3、4人のグループで話し合い、実際に模擬授業を行った。その後、お互いに評価し合い、今後の実践に生かす方法を考えた。



(10) 目標の達成状況・成果

セミナー当日にアンケートを配布し集計した。その結果を見ると、日本で生活する外国人への理解が深まり、実際の支援に役立つものであったと多くの参加者が感じていることが分かった。

(11) 改善点について

会場が縦長だったので、後列では講師から遠くなりPPを映すスクリーンが見づらかった。駐車場のスペースを十分に確保するのに難しい回が多く、制限が必要だった。例年、この会場はリーズナブルで使用しているが、今年は回数も多くこのようなハードな面での不都合を感じた。今後は新たな会場を検討することも視野に入れたい。また、講義の内容が、日本語支援経験者に対するもの多かった。これから、新たな人材養成が課題であるJTMIにとっては、未経験者にも日本語支援のことが理解しやすいような講座の内容を考えなければならないと思う。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 「子どもと暮らすためのこんにちはとくしま」副教材 読む・書く
 (2) 対象 子供を持つ保護者および一般の人
 (3) 目的・目標 昨年作成した「子どもと暮らすためのこんにちはとくしま」の「読む・書く」のページの内容を習得するため、そのトピックの文化的背景や日本の学校のしくみを、楽しみながら学べる教材を作る。
 (4) 構成・総ページ数 全6課分 総ページ数 45ページ
 1, 3, 4, 6, 11課…トピックの文化的背景を知る読み物やタスク学習 2ページ×2種類
 通知文の「やさしい日本語版」と「ルビ振りとキーワードの強調版」×2種類

8課…上記1種類

付録…問診票のルビ振り版

(5) 教材作成会議の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 9月22日 15:30～ 17:30	2時間	トビア大会議室	山溝十糸子 村松 幸子 長町 順子 玉置 房 加村 匡子 相田 奈美 辻 暁子	「子どもと暮らすためのこんにちはとくしま」副教材について	全体の構成 担当の課の決定 課ごとのテーマ
2	平成25年 10月20日 15:30～ 17:30	2時間	トビアロビー	山溝十糸子 村松 幸子 長町 順子 玉置 房 加村 匡子 相田 奈美 辻 暁子	原稿の確認	原稿内容の確認、校正、遂行 イラスト検討
3	平成25年 12月1日 15:30～ 17:30	2時間	トビアロビー	山溝十糸子 村松 幸子 長町 順子 玉置 房 加村 匡子 相田 奈美 辻 暁子	原稿の確認	原稿内容の確認、校正、遂行 イラスト検討
4	平成25年 12月23日 10:00～ 12:00	2時間	トビアロビー	山溝十糸子 村松 幸子 長町 順子 玉置 房 加村 匡子 相田 奈美 辻 暁子	原稿の確認	原稿内容の確認、校正、遂行 イラスト検討
5	平成26年 1月19日 15:30～ 17:30	2時間	トビアロビー	山溝十糸子 村松 幸子 長町 順子 玉置 房 加村 匡子 相田 奈美 辻 暁子	原稿の確認	原稿内容の確認、校正、遂行 イラスト検討
6	平成26年 3月2日 15:30～ 17:30	2時間	トビアロビー	山溝十糸子 村松 幸子 長町 順子 玉置 房 加村 匡子 相田 奈美 辻 暁子	原稿の最終確認	ルビ振り、フォント、揃え等のチェック

- (6) 使い方 ①本冊の「読む・書く」の学習に入る前に、まずトピックの読み物のところを学習し、文化的背景を理解してもらう。
 ②読み物で理解したことをもとに、タスク学習で自分の理解度を確認する。
 ③「やさしい日本語版」で、書かれている内容を理解する。
 ④「ルビ振り・キーワード強調版」で、書かれている内容の大意を読み取る。

(7) 具体的な活用例 本事業の「JTMにほんご教室(大人教室)」やJTM主催の「日本語サロン」で活用する。

(8) 成果物の添付 別添

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的 日本語の支援を必要とする外国人に、地域での生活に必要な日本語学習の場を提供し、彼らが徳島の地域性や文化・風習を理解し、まわりの人とうまくコミュニケーションをとりながら、社会の一員としていきいきとした生活が送れるよう、支援体制の充実をはかる。
また、そのための指導者の人材を養成するとともに、日本の文化を理解してもらえる学習教材の開発を行う。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

日本語教室は、教室の中の限られた学習だけでなく、地域の人とのコミュニケーションをより意識した活動内容にすることができた。教室の会場にいる職員の方へのあいさつや、また課外授業として行った、美術館や、地域の観光サービスを利用した活動では、見聞きしたのに対して、自然に言葉を発したり、地域の人との交流もできる活動ができた。また、コミュニケーションということにおいては、研修でも、場面や対話を中心とした活動について具体的に講義を受けることにより、教室(特に大人教室)でも、対話学習、場面学習を中心とした学習者主体の指導にすぐつなげることができた。

教材作成では、トピックについての楽しい読み物的な内容にすることにより、学習者が自然と日本の文化に興味を持ち、支援者と学習者、学習者同士の対話が促進できる教材に仕上がった。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

IV 目的地に移動する。

美術館へ行く交通手段として路線バス利用した。

VII 人とかかわる。

教室をしている会場の建物の職員に積極的に挨拶を交わすようサポートした。

地元の高校生と交流する機会を設けた。

IX 余暇を楽しむ。

美術館で美術鑑賞を行ったり、地域の観光サービスを利用して、街並を教室周辺のルートを一周した。美術館では学芸員の方に、絵を見て気づいたことを積極的に話し、地域の観光サービスではスタッフの方の説明に耳を傾け、自分が暮らす地域への興味を深めた。

気づいたこととしては、課外授業の際、教室の支援者が、スケジュールや、内容を計画したので、学習者自身に計画してもらおう活動を取り入れてもよかったと思う。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

徳島県国際交流協会とくしま国際戦略センター

会場を無償提供していただき、円滑な教室運営に効果的であった。また徳島県国際交流協会とくしま国際戦略センター主催のサマースクールへの参加者の数名に、本事業のJTMにほんご教室にも参加してもらえるという効果があった。

徳島県教育委員会

教室、研修の情報の周知に協力いただいた。また教育委員会主催の発表会でも、本事業について発表する機会をいただき、広く周知してもらえることができた。

徳島大学国際センター

研修のカリキュラムを決める際、支援に生かせる内容にするための助言をたくさんいただき、また講師もご紹介いただいた。

地元県立高等学校

高校からの申し入れにより、高校生とにほんご教室の学習者との交流の機会を設けることができた。教室の子供たちは、日ごろあまり接点のない高校生と交流でき、貴重な機会となったとともに、高校生にも外国にルーツを持つ子供たちの様子を見てもらったり、大人もどのように日本語を習得しているか、また支援者もどのようなことに気をつけて支援をしているか見てもらうことができた。

徳島県労働者福祉協議会

運営委員会会場の無償提供、機材の利用に、多大な協力をいただき、円滑に運営することができた。

(5) 改善点、今後の課題について

日曜日の午後ということで、大人は参加しづらいようだったので、今後は子供と切り離して大人の教室に特化した、時間、場所を検討することも必要だと思える。

また、課外活動は生き生きとした日本語学習には、とても効果的だが、その活動内容を支援者がすべてセッティングするのではなく、学習者自身に計画をしたり、準備をしてもらったりすることで、準備段階から体験型学習にもなるので、今後取り入れていきたい。

また、「働く」ということも見据えて、地元の企業などを訪問し、インタビューするような活動も取り入れ、「働くこと」と「地域の人との交流」と「日本語学習」を連動させるような活動にも取り組んでいきたい。

(6) その他参考資料 セミナーのアンケート別添

文化庁委託 平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

JTM とくしま日本語ネットワーク

日本語指導者養成セミナー

第1回・第2回 プログラム

日 時

平成25年8月24日(土) 9:00~12:00, 13:00~16:00

場 所

ヒューマンわーくぴあ徳島 302 号会議室

(徳島市昭和町3丁目35-1 TEL088-625-5111)

第1回 「生活者としての外国人」のための日本語教育がめざすもの

- 9 : 0 0 開講式
はじめのことば
主催者あいさつ
講師紹介
- 9 : 1 0 セミナー
質疑応答
- 1 2 : 0 0 終了

第2回 「生活者としての外国人」のための日本語教育の実践

- 1 3 : 0 0 セミナー
質疑応答
- 1 6 : 0 0 おわりのことば
終了

講師紹介

岩見 宮子 (いわみ みやこ) 先生 公益社団法人国際日本語普及協会理事

1970 年からビジネス関係者、インドシナ難民、留学生、研修生に対する日本語授業及び教師養成講座の講師を担当する。ベトナム、イランにて大学生に対する日本語教育担当。中国語学院日本語教師訓練班(大平学校)にて文法を担当。大和定住促進センター、国際救援センターにおけるインドシナ難民への日本語教育主任教師を務める。

1995 年から(社)国際日本語普及協会専務理事として、内外の日本語教師研修の企画、調整のほか講師を担当。2001 年から 2004 年の文化庁委嘱コーディネータ研修の企画、コーディネータ、講師を務める。2007 年から 2012 年文化審議会国語分科会日本語小委員会委員、第 12 期文化審議会委員。



主催：JTM とくしま日本語ネットワーク

後援：徳島県教育委員会 徳島市教育委員会 公益財団法人徳島県国際交流協会

徳島市国際交流協会 小松島市国際交流協会 阿南市国際交流協会 吉野川市国際交流協会

藍住町国際交流協会 石井町国際交流協会 特定非営利活動法人美馬の里

文化庁委託 平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

JTM とくしま日本語ネットワーク

日本語指導者養成セミナー

第3回・第4回 プログラム

日 時

平成25年9月7日(土) 9:00～12:00, 13:00～16:00

場 所

ヒューマンわーくぴあ徳島 302 号会議室

(徳島市昭和町3丁目35-1 TEL088-625-5111)

第3回 学習者の発話を引き出す教室活動を目指そう！

- 9 : 0 0 はじめのことば
講師紹介
- 9 : 0 5 セミナー
質疑応答
- 1 2 : 0 0 終了

第4回 教材を生かす力を養おう！～『できる日本語』を使って

- 1 3 : 0 0 セミナー
質疑応答
- 1 6 : 0 0 おわりのことば
終了

講師紹介

嶋田 和子先生 一般社団法人 アクラス日本語教育研究所 代表理事

1969 年、津田塾大学英文科卒業（2006 年、放送大学大学院文化科学研究科修士課程修了）。大学卒業後外資系銀行に勤務。その後専業主婦を経て日本語教師となる。

幾つかの日本語学校に非常勤講師として勤務した後、1990 年より学校法人国際青年交流学園イーストウエスト日本語学校に勤務。教務主任、副校長として教師の指導、学生の日本語指導・進学指導に当たり、2012 年 3 月に退職。

退職と同時に 2012 年 3 月、一般社団法人アクラス日本語教育研究所を設立し、代表理事となる。現在、清泉女子大学非常勤講師など、大学、教師養成講座、地域日本語教育関連の事業などさまざまな形で日本語教育に携わる。

また、学習者の運用能力向上をめざし、8 年近くかけて練り上げてきた日本語教科書『できる日本語 初級』を 2011 年 4 月に出版。以後、『できる日本語』の考え方（プロフィシエンシー重視の日本語教育）を教育現場に広めることに努めている。（2013 年 9 月現在、シリーズは 12 冊となる）。

主催：JTM とくしま日本語ネットワーク

後援：徳島県教育委員会、徳島市教育委員会、公益財団法人徳島県国際交流協会、徳島市国際交流協会、小松島市国際交流協会、阿南市国際交流協会、吉野川市国際交流協会、藍住町国際交流協会、石井町国際交流協会、特定非営利活動法人美馬の里

文化庁委託 平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

JTM とくしま日本語ネットワーク

日本語指導者養成セミナー

第5回・第6回 プログラム

日時

平成25年9月21日(土) 9:00~12:00, 13:00~16:00

場所

ヒューマンワーくぴあ徳島 302号会議室

(徳島市昭和町3丁目35-1 TEL088-625-5111)

第5回 日本語支援のための異文化理解と外国語としての日本語

- 9:00 はじめのことば
講師紹介
- 9:05 セミナー
質疑応答
- 12:00 終了

第6回 学習者のレベルや目的に合わせた学習方法

- 13:00 セミナー
質疑応答
- 16:00 おわりのことば
終了

講師紹介

Gehrtz三隅友子（ゲールツみすみともこ）先生 徳島大学国際センター教授

1990年に神戸大学大学院教育学研究科修士課程修了後、1994年から国際交流基金関西国際センターで、日本語教育専門員として勤務。その後、2000年徳島大学総合科学部助教授となり、2002年から同大学留学生センター教授となる。（留学生センターは現在国際センターと改称）

留学生と地域との交流を図る「異文化理解教育」を進める一方、「アサーティブコミュニケーション」の講師として、病院や学校を中心に研修を行うなど多方面で活躍している。



主催：JTMとくしま日本語ネットワーク

後援：徳島県教育委員会、徳島市教育委員会、公益財団法人徳島県国際交流協会、徳島市国際交流協会、小松島市国際交流協会

阿南市国際交流協会、吉野川市国際交流協会、藍住町国際交流協会、石井町国際交流協会、特定非営利活動法人美馬の里

文化庁委託 平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

JTM とくしま日本語ネットワーク

日本語指導者養成セミナー

第7回 プログラム

日 時

平成25年10月12日(土) 13:00～16:00

場 所

ヒューマンわーくぴあ徳島 302 号会議室

(徳島市昭和町3丁目35-1 TEL088-625-5111)

第7回 「やさしい日本語」を考える～外国人に通じる日本語とは？

13:00	はじめのことば 講師紹介
13:05	セミナー 質疑応答
16:00	終了

講師紹介

牧野 昭子（まきの あきこ）先生

海外産業人材育成協会 関西研修センター 日本語講師

国際交流基金 関西国際センター 日本語非常勤講師

1985年より海外技術者研修協会（現 海外産業人材育成協会）関西研修センターで、主に日本企業で実務研修を受ける研修生、EPA看護師、介護福祉士候補者を対象に日本語指導に携わる。1986年より大阪YWCA日本語学校、大阪YWCA千里日本語学校など、日本語学校でも教鞭を執る。松下電器海外研修所や（株）エクセルインターナショナルなど企業での指導経験も多く、日本語コーディネーターとして社員にも外国人に通じる日本語について指導を行う。1997年より国際交流基金関西国際センターで非常勤講師として、研究者、司書、大学院生、外交官等を対象に日本語指導を行い現在に至る。

[著 書]

『みんなの日本語 初級Ⅰ』、『みんなの日本語 初級Ⅱ』、『みんなの日本語 中級Ⅰ』の本冊、および『教え方の手引き』、『初級で読めるトピック』、『聴解タスク』等、『みんなの日本語』シリーズの10冊共著、ならびに『専門日本語入門 場面から学ぶ介護の日本語』共著



主催：JTMとくしま日本語ネットワーク

後援：徳島県教育委員会 徳島市教育委員会 公益財団法人徳島県国際交流協会

徳島市国際交流協会 小松島市国際交流協会 阿南市国際交流協会 吉野川市国際交流協会

藍住町国際交流協会 石井町国際交流協会 特定非営利活動法人美馬の里

文化庁委託 平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

JTM とくしま日本語ネットワーク

日本語指導者養成セミナー

第8回 プログラム

日 時

平成25年12月7日(土) 13:00~16:00

場 所

ヒューマンわーくぴあ徳島 302 号会議室

(徳島市昭和町3丁目35-1 TEL088-625-5111)

第8回 日本語支援者のための、音声指導の工夫

13:00	はじめのことば 講師紹介
13:05	セミナー 質疑応答
16:00	終了

講師紹介

竹田 悦子（たけだ えつこ）先生 コミュニカ学院 カリキュラム主任

東京外国語大学外国語学部フランス学科卒業、音声学ゼミに所属し、卒論では日本人フランス語学習者の発音に与える母語干渉の影響を取り上げた。

高校英語教諭を経て、1990年よりコミュニカ学院（神戸市）の日本語講師となり、留学生・ビジネスパーソン・生活者等を対象に日本語教育に携わる。

2008年より経済産業省アジア人財高度専門留学生育成事業のもと、大阪大学大学院工学研究科にてビジネス日本語授業を担当。2010年~2011年、厚生労働省緊急人材育成支援事業による職業訓練における日本語教員養成科にて音声学・音声指導等を担当。2010年より奈良女子大学にてキャリアデザイン・ゼミナール「ビジネス日本語」「日本語入門」授業担当。

[業績]

平成 19 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 V 外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発（共同研究）

平成 24 年度日本語漢字能力検定協会 漢字・日本語教育研究助成「トピック共通で複数の日本語レベル及びビジネス知識レベルに対応したビジネス日本語教材の開発」（研究代表者）

『読む力 中級』『読む力 中上級』（共著）、『学習者オートノミー』（共訳）ほか



主催：JTMとくしま日本語ネットワーク

後援：徳島県教育委員会 徳島市教育委員会 公益財団法人徳島県国際交流協会

徳島市国際交流協会 小松島市国際交流協会 阿南市国際交流協会 吉野川市国際交流協会

藍住町国際交流協会 石井町国際交流協会 特定非営利活動法人美馬の里

文化庁委託 平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

JTM とくしま日本語ネットワーク

日本語指導者養成セミナー

第9回・第10回 プログラム

日 時

平成25年12月14日(土) 9:00~12:00, 13:00~16:00

場 所

ヒューマンワーくぴあ徳島 302 号会議室

(徳島市昭和町3丁目35-1 TEL088-625-5111)

第9回 徳島で暮らす外国人のための日本語支援を考える・・・その1

9 : 0 0 はじめのことば
9 : 0 5 模擬授業体験
1 2 : 0 0 終了

第10回 徳島で暮らす外国人のための日本語支援を考える・・・その2

1 3 : 0 0 J T M とくしまの取り組みから・・・兼松 文子 (J T M とくしま会長)
1 3 : 3 0 吉野川市国際交流協会の取り組みから・・・瀬尾 規子先生
1 5 : 0 0 これからを見据えて・・・兼松 文子
1 6 : 0 0 おわりのことば
終了

講師紹介

瀬尾 規子 (せお のりこ) 先生

吉野川市国際交流協会会長

吉野川市鴨島町出身。1978年徳島大学薬学部卒。1989年~1991年日本大学文理学部英米文学科在籍、1991年英語科教員免許取得。2010年放送大学院社会経営科学プログラム修了(学術修士)。

地域日本語指導ボランティア養成講座(初級・中級コース)修了。

大阪にて薬品関係に勤務後、1985年帰郷。現在レデイ薬局に管理薬剤師として勤務。

2000年~2004年鴨島町国際交流協会会長、2004年より吉野川市国際交流協会会長。

徳島県女性協議会会長。NPO法人協働プランニングNIMS(ナイムス)理事長。JTMとくしま会員。生涯学習コーディネーターほか。国際交流始め、環境保全や男女共同参画社会づくりを目指す活動を行なっている。

兼松 文子 (かねまつ ふみこ)

J T M とくしま日本語ネットワーク会長

阿波市(旧板野郡吉野町)出身。徳島大学教育学部小学校教員養成課程修了。

1996年、日本語教師養成講座420時間修了。同年、日本語教育能力検定試験に合格。

1996年徳島県女性リーダー養成海外派遣団員としてニュージーランドに派遣される。1999年より2年間、派遣団員で構成される徳島県女性海外派遣交流会(ペローラ)の事務局を担当。1997年JTM(日本語教授法)研究会を発足。2001年JTMとくしま日本語ネットワークと改称。事務局を担当。2005年より会長。公益社団法人徳島県労働福祉協議会事務局次長。徳島県少子化対応県民会議および徳島市子ども・子育て会議委員。

主催：J T M とくしま日本語ネットワーク

後援：徳島県教育委員会 徳島市教育委員会 公益財団法人徳島県国際交流協会

徳島市国際交流協会 小松島市国際交流協会 阿南市国際交流協会 吉野川市国際交流協会

藍住町国際交流協会 石井町国際交流協会 特定非営利活動法人美馬の里

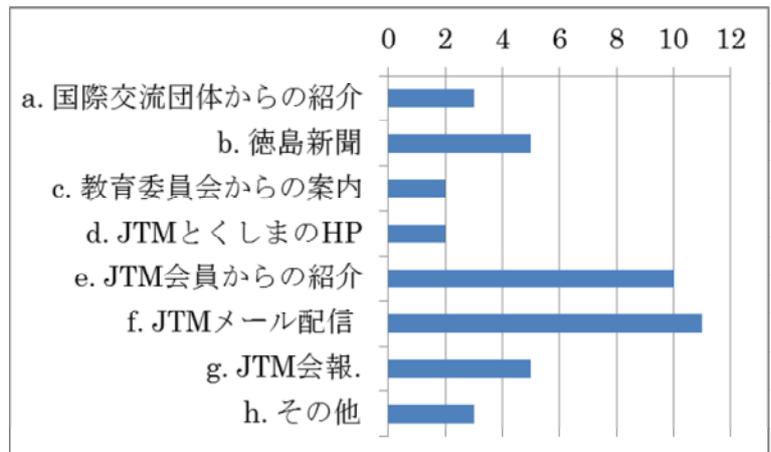
「日本語指導者養成セミナー」 アンケート
回答結果

総受講者数 46名

回	日付	テーマ	受講者数	アンケート回答数	アンケート回答率
1	8/24	「生活者としての外国人」のための日本語教育がめざすもの	30	27	90.0%
2		「生活者としての外国人」のための日本語教育の実践	28	27	96.4%
3	9/ 7	学習者の発話を引き出す教室活動をめざそう！	28	26	92.9%
4		教材をいかす力を養おう！～『できる日本語』を使って～	29	26	89.7%
5	9/21	日本語支援のための異文化理解と外国語としての日本語	33	29	87.9%
6		学習者のレベルや目的に合わせた学習方法	34	29	85.3%
7	10/12	「やさしい日本語」を考える～外国人に通じる日本語とは？	32	31	96.9%
8	12/ 7	日本語支援者のための、音声指導の工夫	33	22	66.7%
9	12/14	徳島で暮らす外国人のための日本語支援を考える ～JTMとくしまの取組から（その1）	21	18	85.7%
10		徳島で暮らす外国人のための日本語支援を考える ～吉野川市国際交流協会の取組から ～JTMとくしまの取組から（その2）	19	18	94.7%

1. このセミナーを何で知りましたか。（複数回答あり）

a. 国際交流団体からの紹介	3
b. 徳島新聞	5
c. 教育委員会からの案内	2
d. JTM とくしまのHP	2
e. JTM 会員からの紹介	10
f. JTM メール配信	11
g. JTM 会報	5
h. その他	3

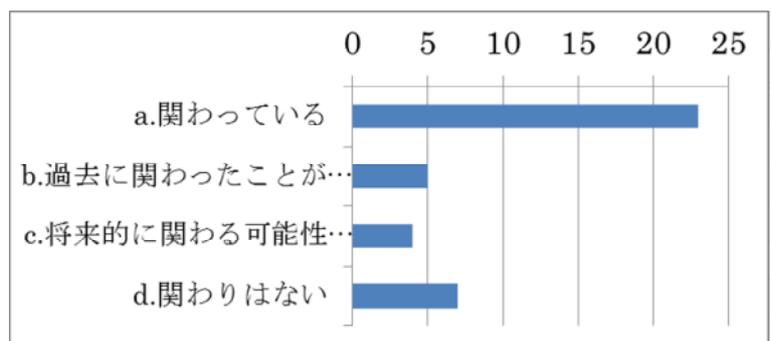


※その他

- ・知人から
- ・鳴門教育大学の学生課国際交流チームから

2. 現在、日本語を母語としない人たちへの日本語支援に関わっていますか。（複数回答あり）

a. 関わっている	23
b. 過去に関わったことがある	5
c. 将来的に関わる可能性がある	4
d. 関わりはない	7

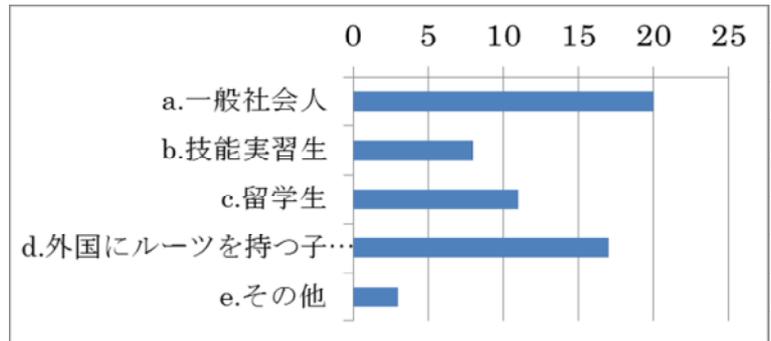


3. 2. で a.～c. を選んだ方にお聞きます。支援の対象者は次のうちどんな人ですか。（複数回答あり）

a. 一般社会人	20
b. 技能実習生	8
c. 留学生	11
d. 外国にルーツを持つ子ども	17
e. その他	3

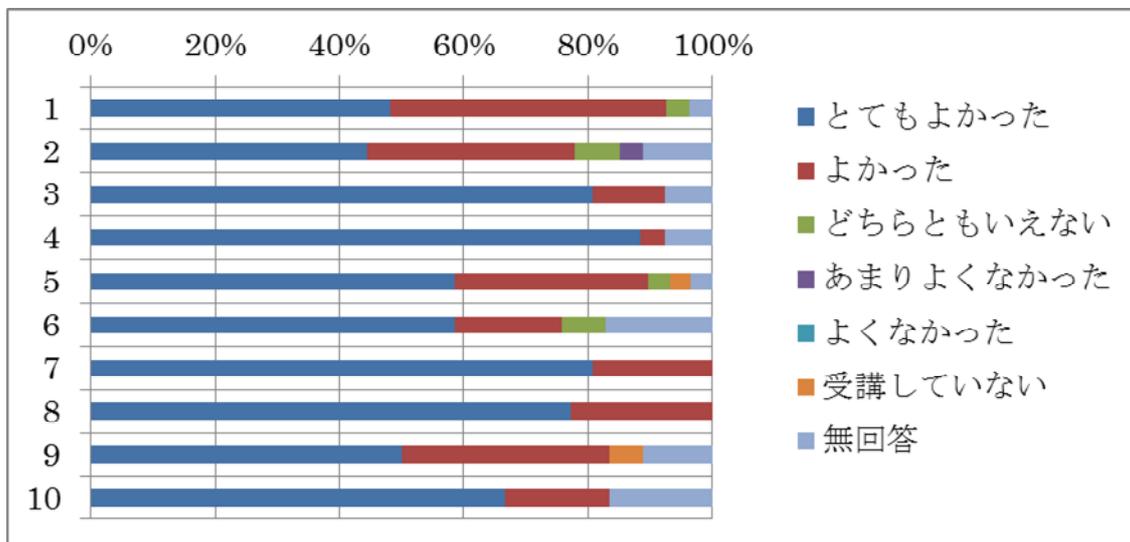
※その他

- ・ALT
- ・介護福祉士候補生



4. セミナーはどうでしたか。

回	とてもよかった	よかった	どちらともいえない	あまりよくなかった	よくなかった	受講していない	無回答
1	13	12	1				1
2	12	9	2	1			3
3	21	3					2
4	23	1					2
5	17	9	1			1	1
6	17	5	2				5
7	25	6					
8	17	5					
9	9	6				1	2
10	12	3					3



理由

【1回目】

- ・日本語教育の現状を知ることができてよかった。(2)
- ・カリキュラム案についての理解が深まった。(2)
- ・地域における日本語教育の課題から、「生活者としての外国人」の日本語教育のめざす方向性がよくわかった。(7)
- ・説明が丁寧で分かりやすかった。(2)
- ・レジメの印刷した字が小さすぎて読みづらい。もっと大きな字であらわしてもらいたい。
- ・内容が多すぎて頭に残らなかった。
- ・初心者なので少し難しい面があった。
- ・もう少し、参加者とのやりとりがあっても良かったかと思いました

- ・日本語教育の進化や歴史がよくわかったが初心者なので少し具体的イメージが沸きにくく難しい面があった。

【2回目】

- ・カリキュラムの組み立てなど、いい勉強になった。(2)
- ・グループ活動がよかった。(4)
- ・実践を体験してみることで、より自分を向上させようという気持ちになった。(2)
- ・ロールプレイが楽しかった。(2)
- ・日本語指導の経験がなかったので少し難しかった。(2)
- ・日本語指導力ポートフォリオについて理解できた。
- ・

【3回目】

- ・文型積み上げでなく、人のつながりが出来るようなことば(会話)をする点
- ・文型積み上げ式一辺倒の考え方だったので目からウロコの思いがしました。(2)
- ・イラストを使ってする授業展開のしかたがよくわかった。(2)
- ・「できる日本語」の長所、考え方がよくわかった。
- ・嶋田先生のパワーに引き込まれて、こちらも熱心にきけました。とにかく時間が短く感じた。
- ・学習者から発話を引き出す工夫の仕方を具体的に聞くことができた。
- ・学習者にとって役立つ教材、教室活動の意図がよく理解できた。
- ・とても参考になりました。音声素材が街にあふれていることに、今さらながら気づきました。もっと授業に工夫を加えようと思います。ありがとうございました。
- ・指導者・支援者としての心の持ち方(考え方)を学んだ。
- ・文法積み上げ方式からぬけ出すのはなかなか難しいと思いました。学習者が考える、発話するというのを心してやっていきたいです。
- ・ボランティアとして活動始めたばかりで「みんなの日本語」で精一杯の状態でしたので、正直言って始めは大いに戸惑いました。お話の内容がなかなか難しいです。
- ・人とつながることは大切ですね。学習者の立場になるのは気づきが多い。日本語を勉強したらできるようになることを提示してやる気を引き出せたらと思いました。
- ・会話の不自然さなど、ふだんの授業をもう一度ふりかえることができた。

【4回目】

- ・実際の生活に沿った漢字の覚え方を知りました。見てわかる語、読める字(2)
- ・皆で考え意見を共有することができた。(2)
- ・わくわくするような授業をするための場面設定やことばの大切さがわかった。(2)
- ・実際に学習者になってアクティビティーをして楽しかったです。(2)
- ・具体的で、日本語教育、教室活動のイメージがよくできました。(4)
- ・漢字は、時間をとって指導しなければならないし、興味のない学習者にはたいくつなんじゃないかと思っていたが、そうではなく対話の中で楽しく学習者主体で活動に取り入れる工夫をお聞きしてとても勉強になった。(2)
- ・漢字や敬語を特別枠で教えるのではなく、すべてを取り入れてあらゆる場合で教えることができるのだと気づきました。(2)
- ・いろいろなワークショップが楽しかったです。最後のしめくりも感動的でした。元気が出ました。(2)

【5回目】

- ・こういう風に絵を見たらおもしろいか、自由に感じたらいいんだなあということを学んだと思う(3)
- ・よくわかり新しい発見(3)
- ・絵画の鑑賞の仕方を通じて芸術と言語の関わりやコミュニケーションの方法の工夫などについて考えられた。(4)
- ・みがまえなくてもいいんだ、素の自分でいいんだ、いろいろな考えがあつていいんだと実感できました。(2)
- ・スキーマの変化、今まで学習してきたことをくずして新しい考えをふきこむことに感動しました。
- ・楽しかった。固定観念にとらわれず、表現する楽しさを味わった。(2)

- ・ 肩のこらない内容で興味深いお話だった。鑑賞については、本人が意識しなくてもその人の考えや体験が出ていて、人それぞれでとても奥深い。美術館にも興味が持てそう。
- ・ 学習者が何かを伝えたいと思うことが大切であり、伝えられないことにも意味があるということばが印象的だった。日頃使わない思考回路を使ったような機がする。
- ・ いろいろな視点、感じ方など学ばせていただきました。セミナーで初めてリラックスして参加できました。(2)
- ・ 日本語の指導にどのように結びつけようかと考えました。学習者の情意フィルターを下げるのに、とても役に立つと思いました。
- ・ やったことのない活動を経験できてよかった。セミナータイトルから思っていた内容とは違った。

【6回目】

- ・ いろんな活動があっただけでしたが、少しお話の焦点が私には見えにくかった感じでしたので少しだけ残念でした。最後のまとめを聞いてわかった部分もありました。(でも楽しかったのであまり気にはなりません)
- ・ 内容がわかりにくかったです。
- ・ 異文化・多文化など、スキーマを理解できておもしろかったです。(2)
- ・ 大学での日本語コースの一端を知ることができた。(4)
- ・ タスクベースの学習など、日本語指導の具体的なやり方などがよくわかった。(3)
- ・ 他文化⇔自文化 異文化と多文化のことを学びました。
- ・ 実際の指導法やその工夫について教えていただくなか、指導法やその新しい考え方を教えていただいた。
- ・ 固定観念を変え、新しいものにチャレンジしていくこと
- ・ 心に訴える授業でした。
- ・ 自己紹介をすると人とグッと近づける気がします。今日もまた良い方とお会いできました。先生のお話はいつも楽しくて説得力があります。

【7回目】

- ・ やさしい日本語に戻すということ、実際にやってみることで普段自分が何気なく使っている日本語について改めて考える機会を得た。(6)
- ・ 大変わかりやすかったです。やさしい日本語を使うことの大切さが十分わかりました。(12)
- ・ 普段気をつけているつもりでも外国人には意味が伝わらない表現をしていることに気づかされた。
- ・ 「より豊かなコミュニケーション」のための具体的なお話が聞けてよかったです。ことばの持つ重み、特に対話におけることばの重みについて考えさせられました。
- ・ やさしい日本語を作るむずかしさを感じました。
- ・ グループなどでいろいろやってみることが興味深かったです。やさしい日本語を使えるようになるためには、支援する側の日本語力をもっと鍛えなければいけないと実感しました。やさしい日本語に直すのに四苦八苦しました。
- ・ 外国人が日本語の「どこ」がわからないのか「なぜ」わからないのかがよくわかりました
- ・ 実際にやさしい日本語に変える実習があり、とてもおもしろかった。

【8回目】

- ・ 音声上の問題の例が参加者からたくさんあがり、竹田先生がひとつひとつ原因をひもといて、指導のコツも教えて下さったので、理解が深まりました。(4)
- ・ 大学で学習してきたことを実践のレベルで活かすことができると思ったから
- ・ 日本語教育の発音学習における現状と問題点 具体的な事例とそれに対するアプローチなど 日本語教育未経験の私にも大変よくわかり非常に興味深く実践的で役に立つものだったから
- ・ 音声指導についてとても興味があったので
- ・
- ・ 音声学ってむずかしそうと思っていたのですが発音よりプロソディーが問題になっていることが多いとかミニマルペアーの指摘などとてもおもしろく楽しかったです。(2)
- ・ 意識してなかったことがよくわかったのでよかったです。注意すべき点が非常によくわかりました。(2)
- ・ 耳が遠くなっている老人には太い声で話すなど逆に高い声で伝えようとしていた自分がいたので反省

- ・ 日頃「どうして直らないんだろう？」と思っていたがその理由がよくわかった。

【9回目】

- ・ 実践で使えるもので勉強になりました。話し合えてよかったです。(2)
- ・ 場面を設定して教案を立て、実際にやってみるという練習はとても勉強になると思った。学習者の実態(能力レベル)を知り、それにかなった教案をたて、目標達成できるように実践するのは本当にさまざまなことを考えなければうまくいかないということがよくわかる。
- ・ 各班、とても良いデモができましたと思います。参考になりました。(6)
- ・ 模擬授業で場面設定の大切さがわかりました。限られた時間内でしたがメンバーで話し合うことで各自のアイデアを出せてよかったです。
- ・ デモ授業はどうしても初級の前段でイメージしがちになるので、場面を絞りこんで行動に結びつけるには、かなり距離があったというか、別のルートが考えられても(実用サバイバル日本語?)いいように思いました。
- ・ 今日スケジュールをまったく把握していなかったので正直どうしようという感じだ このような活動は未経験だったので非常に難しかったです。日本語を教えるという目標に対して様々な方法そして個人の考えがあるということ(グループ内での話しあい、最後の全体のディスカッションから)

【10回目】

- ・ 吉野川市国際交流協会の取り組みやJTMの取り組みについて詳しく知ることができました。(6)
- ・ 会長さま2名のお話をきき協会の話や理念を再度確かめあうことができた。(3)
- ・ 兼松さん 瀬尾さん共にパワフルに国際交流や日本語支援について話していただき各団体の歴史や活動の現状を知ることができ私もがんばろうと意欲を持ちました。
- ・ 1言語を教えるということはことばを教えるということだけではない2兼松会長の外国人の子どもに対する日本語支援の必要性の発表から
- ・ 瀬尾さんの話をきき、他との連携の必要性を、さらに感じた。
- ・ 瀬尾先生のパワフルな国際交流協会での活躍ぶりに圧倒されました。お隣の町ということもあり

5. 講義の中で①一番印象に残ったことは何ですか？ ②その理由は何ですか。

【1, 2回目】

①印象に残ったこと

- ・ やはり基本は人間関係とよくわかりました
- ・ 「生活者としての外国人」のための日本語教育がめざすもの(8)
- ・ JTMの会員の人に話を聞いて経験者との学習差がありすぎて、勉強のしがいがありそうです。
- ・ 対話中心の協働学習
- ・ 初めて養成セミナーを受けて活動案や模擬授業の内容を考えたこと。各分野で様々な取り組みがなされているがボランティアに頼っている部分も多いこと。
- ・ ”スーパー名刺””地域お役立ちマップ””情報蓄積型マップ”をグループで考えたこと。
- ・ 「プログラムを作ってみましょう」は初めてだったので難しかったです。
- ・ ロールプレイ、模擬授業、ロールプレイタスク(3)
- ・ チームで活動案を考えたこと。
- ・ カリキュラム案等の内容
- ・ 徳島ではたくさんの方々が「生活者としての外国人」を支援する活動に携わっているということを知ったこと。
- ・ 全体像をのれなくふかんすることができたことです。
- ・ レベル差をあまり気にしなくてもよい授業のヒントになった。

②理由

- ・ いつも思っていることなので
- ・ 本事業のこれまでの経緯や今後めざしていくもの、流れがわかりました JTM以外の方とも共有できたこと
- ・ 今迄知らなかったから。

- ・日本語指導の何たるか基本が理解できていない。レベル差がありすぎる。JTM とくしま日本語ネットワーク活動も知らなかった。
- ・教科書に基づく学習も大切だが生活する為の日本語を教えることの重要性がわかった。(2)
- ・教室がひとつの社会であるという概念。そこにおける教師の役割がファシリテーターである点。文法は後付けでまとめるという点。
- ・第1回目なので講義形式と思っていたので。予想はしていたが改めて知り、皆さん、熱心に取り組みをされていてとても勉強になった。
- ・テーマと具体的内容を決めるのが難しかった。標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例の一覧表はとても参考になりました。
- ・活動案を作り上げていくうえで、みんなから活発に意見が出てその人がよく分かってよかったです。(4)
- ・具体的に何が必要なのかということが実感できた。(2)
- ・「生活者としての外国人」のとらえ方がよく分かった
- ・今日のような講演会を企画しお忙しい中来ていただける実績と熱意積極的に次々質問されていたこと
- ・今まで文法積み上げ方式のほうが、へんなくせもつかず、将来的に早く日本語習得につながると考えていたから。
- ・やはり岩見先生のご見識だと思います。
- ・対話型授業の柔軟性を学習したので。

【3, 4回目】

①印象に残ったこと

- ・学習者も教えるほうもわくわくするような授業。教師はしゃべらない。学習者の言いたいことをうまく引き出す。用意した教材を捨てる勇気が必要。(4)
- ・教えるっておもしろい
- ・できる日本語の内容、使い方
- ・とても時間が早く過ぎました。
- ・実生活に根ざした教室活動・エピソード記憶の重要性
- ・対話を上手にひきだすこと・本当に必要なものは何なのかと学習者を前にして柔軟によく考えることが大切。(日本語教育において)日本人話者の持っているものは大きいなと思いました。
- ・漢字を知る楽しさのビデオ・漢字たまご(2)
- ・実際の教室の場面を見せてもらい、表情豊かにされていて、テンポよく学習者の言葉を引き出していく様子に感心しました。
- ・学習者の学びたいという気持ちを引き出すことが大切だということ。それは支援者にとっても楽しいことだということ。教室はコミュニティーだということ。教室と外をつなぐことが大切だということ。
- ・対話を大事に。共に学ぶということ。傾聴が大切ということ。(4)
- ・場面の提示の仕方。・漢字学習の活動(3)
- ・もちろん、内容も良かったんですが、講師の嶋田先生がすごく素敵なお方で印象に残りました。
- ・生徒のモチベーションを高める工夫。まず場面と状況ありき。文法を教えることに終始。生徒の自由な発想、自立をプロモートする。主役は生徒である。
- ・フィードバックすることは大切ですね
- ・先生がすごく準備をされていること

②理由

- ・今まで考えてはいたものの、全然できていなかったから。(文型重視だったから。)
- ・学習者から会話を引き出すとか楽しい教室作りとか、頭ではわかっているけどなかなか難しいことです。遠い目標ではありますが、一歩ずつ前進していきたいと思います。(2)
- ・よくわかりました
- ・今までの教え方が根本的に変わりました。
- ・先生の明るさ、エネルギーなどの人間力だと思います。(2)
- ・学習者のニーズに応じて、コミュニケーション能力(日本語)を育てる支援には何が必要か、考える機会を得ました。

- ・楽しそうでした。こういう風にできたら良いね
- ・また実際に今日の講義も楽しくあつというまの一日でした。ありがとうございました。
- ・教師は教えるものと思っていたから。話を引き出すのが難しかった。自分もコミュニケーション力をあげなければと思った。
- ・生活、人間関係に大事だから。(国籍や人種を問わず大切。)
- ・場面を適切に提示することで、学習者のことばが生き生きとしたものになる様子がイメージできた。・漢字を対話に取り入れられる方法を知った。(2)
- ・「書けるようになる」「読めるようになる」「サインとして理解できるようになる」という目的に分けて漢字リストがあることに、言われてみればそうかと気づかされました。目からウロコ。
- ・単なるパタンプラクティスになりがちな教室活動が生き生きと楽しいものになるアイデアをいただきました。
- ・実践で学ぶことができた。・学習者に発言してもらうことの重要性(2)
- ・私自身がそうですから。今までも言葉に頼らず視覚に訴えようとはしていますが、まだまだやり方が甘かったと思います。これから、私自身のやり方がどのように変わっていくか、楽しみでもあります。
- ・初級の段階で、支援者はできるだけしゃべらず学習者から言わせる、しかけるやり方におどろきました。
- ・「みんなの日本語」をしていてある学習者の人から動詞の変化は覚えたけど実際に会話ができないと言われました。
- ・生徒中心の授業を心がけてきたつもりでしたが、発話が多くても文法にフォーカスしたメカニカルプラクティスが主流になっていたことに気づきました。Fluency はついても、自分の考えを述べたり、自分で考えて調べる活動にまで持っていけていませんでした。
- ・達成感を味わいながら楽しく学習してほしいし、それができるようなしかけをつくる。つくる側も楽しいです。使える言葉、勉強したことが日常生活に使える、人とつながれるものもいいです。

【5, 6回目】

①印象に残ったこと

- ・学習者のモチベーションが下がったとき、いいサポート役をしてくれる人と出会えたらすごくいいなと思った。
- ・スキーマ、文化スキーマについて(3)
- ・「アート鑑賞は”同じところで違う夢をみる”という言葉が印象的でした。いろいろな価値観を受け入れられること、そのままの自分でいいと手紙で美術を説明するのはとても興味があります。聞こえない分よく見ると思います。
- ・ゆだねる感覚・言葉以外のことが言葉にとって大切
- ・竹内学芸員のことば→そのままの自分でよい←なんと懐の広くて深いことば！・三隅先生 多岐にわたりお話くださって大変勉強になりました。
- ・絵のみ方 絵の前でアクション(3)
- ・自分で考えを自由に言えること、またそれを学ぶこと。・多文化・自文化を大切にしていくこと
- ・やはり人対人のつながり、ことば
- ・竹内先生のことば「そのままの自分でよい。」「言葉以外のことが言葉にとって大切。」ということ。(2)
- ・三隅先生の初級・上級の授業の中で、映像がたくさん使われていたことがとても印象的でした。(2)
- ・絵を感じる活動・スピーチの指導を知ったこと(2)
- ・美術教育で竹内氏が実践されたことの追体験・・・おもしろかった・スピーチ指導の内情/会話練習◎スキーマの活性化
- ・一つのものを見ても其れをどうとらえるか千差万別でおもしろいと思いました。
- ・初級日本語研修コースの学習内容。
- ・スピーチコンテストで勝ちにいけるテクニックについて

②理由

- ・いい経験をされたんだなあーと思いました。
- ・自分がそのサポーターにいつかなれたらいいなあと思った。
- ・スキーマを意識することで、考え方が広がったように思う。(2)
- ・人のイメージは完全に理解できるとは言えないという認識が大切。朝のシャンペンの話しおもしろかったです。文化スキーマおもしろいですね。スキーマを活性化するのもできるのでいいですね。支えることはこうでなければならぬではなく学習者にあわせてかえていく。

- ・タスクベース、場面シラバス、日本人と触れる 学習が具体的にわかりました。(2)
- ・グループで「秘密があるで賞」を選んだのですが、4人皆がそれぞれ違う絵を選んで、意見を出しあったのがおもしろかった。
- ・勉強勉強せずリラックスできる
- ・決まりきった考え方のワクにはまらない 新しい視点を獲得することの大切さ、発想が柔軟かつ自由になり開放される気がする
- ・人間関係の当然の原理を改めて見ました。
- ・形や形式にとらわれない考え方だから、受容の大切さを学んだから。
- ・映像の持つ力は強いと思いました。
- ・概念の枠組みは自由！(2)
- ・絵の力を身をもって感じた。・スピーチでおさえるコツを知った。
- ・外国人の方が意欲を持って日本語学習に取り組むとこんなに上達するんだなと感心しました。私もそのような支援ができるようになりたいと思います。
- ・目標を忘れて楽しめた。後で(このセミナーの目的は?)と考えた。・「スピーチ大会に優勝するために」のウラ事情がおもしろかった。・「スキーマ」ということばと意味を知ったこと。
- ・スピーチコンテストに出場する学生を指導することがあったので。

【7回目】

①印象に残ったこと

- ・ゴミだしの通知文をやさしい日本語に直す作業 (2)
- ・外国人が求める日本語についての情報を提供するということ。
- ・やはりコミュニケーションの大切さ 目線の必要
- ・「対話を心がける」ということばです。
- ・初級学習者と日本人男性が話している音声テープを聞き、もっと自分自身の話し方にも気をつけようと思った。
- ・自分ばかり話しすぎない、傾聴することの大切さ
- ・熊本大とニース大の「理想の家」についての両大学の学生たちの考えの違いをとっても興味を持ってみました。日本人のいかにも日本的なものの考え方や感じ方にとっても納得がいったように思えます。・「やさしい日本語」への直し方の実例
- ・理想の家についての記事。牧野先生の‘やさしい‘お人柄
- ・しらずしらずに方言を使用していること。自分の方言を知ることが大事と思います。・対話を心がける、(自分の欠点)注意しようと思います。
- ・「やさしい日本語」で話すために(資料B)の内容 (2)
- ・やさしい日本語に直すのがとても面白かったです。二つの大学の学生の考え方の違い、お知らせをやさしい日本語に書きなおす、などとても有意義でした。「外国語に翻訳できる日本語」という考え方も面白かったです。
- ・どのように話をすれば外国人が理解できるかが重要。日本人が一方向的に話をしないこと。「短文・単文にする」(2)
- ・「日本人の発想に対する理解不足に対する話し方」です。
- ・先生の話し方が、やさしいことばでありながら説得力がありよかったです。(2)
- ・適当に相槌を打たないようにすること(2)
- ・「やさしい日本語」は、いい方をやさしく変えるだけでなく、要点をわかり易くつたえるものであるということ。(2)
- ・「より豊かなコミュニケーションのために」で意見と事実を分ける、構成を考えて話す、ナンバリング、ラベリングの大切さがよくわかりました
- ・やさしい日本語は外国人だけでなく子どもたちや高齢者、障がい者とのよりよい人間関係にもつながる(2)

②理由

- ・大事なポイントを絞って、いらぬ箇所を削ぎ落としていく工夫の仕方を改めて考えることができた。(4)
- ・学習者も話したいのになかなかチャンスがないと言っていたのを思い出したので、反省も込めています。(2)
- ・異文化理解ということで、自分が日本人であり、ものの考え方、感じ方がいかにも日本的なのだなあと上記のことからも思いました。・相手に理解してもらえやさしい日本語を使っていくことが大切だとよくわかりました。
- ・いろんなことを考えさせられる内容でした。(2)

- ・ むずかしかった。
- ・ 具体的な例があがっていて、理解しやすかったから。自分で「どう言い換えるか」考えることができたから。
- ・ ことわざ「話し上手は聞き上手」を考えることが重要と感じた。相手の立場に立って考え、話すことが重要。(2)
- ・ ～けど・・・という言葉はとてもよく使います。しかし、外国人は～けどの続きを待ったりするということを聞き、とても驚いたからです。
- ・ そこへ、意識が集中できたからです。
- ・ 日本人が抽象的、感覚的に答えている点
- ・ 相手がどこまで理解できているか知ることができないかも？
- ・ 現在自分がやっている支援を見直し、今後にかすことができた。
- ・ 自然災害や大事故にあったときには外国人にすばやく正確に伝わらないと命にかかわるということ、また、子どもやお年寄りにとってもわかり易く伝わりやすい→コミュニティーの絆の強まりへユニバーサルデザインならぬユニバーサル日本語
- ・ 人と人のあり方が豊かになり、人と人がつながる地域社会づくりになるから(3)

【8回目】

①印象に残ったこと

- ・ 拍を考える。今まで拍を意識するのは、促音の「つ」のみ意識して教えていたが、その他の発音の問題も、拍を考えれば、ある程度直すことがわかった。もう一つ。「ゆっくり」話させることによって発音の変なところがよくなるといった点などが印象に残っています。(5)
- ・ インテンションをもたせる ここぞというときはキーワード(2)
- ・ ネイティブ側が、実はわかっているのに発音が気になっているだけで理解できていない、ということがあるのではないかと、ということ。そして、もっといろいろな国の人々が話す日本語に慣れるような世の中になる日がくる、というお話。
- ・ 長すぎたり、短すぎたりするとぞんざいに聞こえる。カタカナ語は英語ではない。
- ・ 学習の決定権は誰にある？というテーマ
- ・ 学習者の発音の問題点を挙げて、発声、発音・プロソディーに分類したこと。
- ・ /t/, /d/, /th/, /dh/のちがいにによる認識のちがい。
- ・ フォーカスすること ゆっくり話すことなど学習者の立場に立って指導する方法 (4)
- ・ 発音自体を無理に強制しようとするのではなく、各話者のプロソディーの特長による違いに練習をフォーカスするだけで(例、拍を意識、長音に意識)ずいぶん母語話者に対する聞き方の印象がよくなる
- ・ 学習者の発音の問題点を挙げて、発声、発音・プロソディーに分類したこと。
- ・ /t/, /d/, /th/, /dh/のちがいにによる認識のちがい。
- ・ 今までも聞いた事がありましたでしたが着くところは拍ですね、よかったです。(2)
- ・ あれこれ言わないでキーワードを絞る。
- ・ フォーカスすること ゆっくり話すことなど学習者の立場に立って指導する方法
- ・ 一つの課題にフォーカスして練習することの大切さがわかった。学習者、指導者共、意識して取り組むべき。
- ・ 発音自体を無理に強制しようとするのではなく、各話者のプロソディーの特長による違いに練習をフォーカスするだけで(例、拍を意識、長音に意識)ずいぶん母語話者に対する聞き方の印象がよくなる

②理由

- ・ 拍感覚の重要性がわかり、今後の学習支援で使いたいと思いました。(3)
- ・ 本当にそのとおりだと感じました。自分自身の外国生活の経験から、様々な母語を持つ人々の英語に接することで(自分も含め)、言語とはどういうものかという(それがあたりまえという)ふう感じていたので。
- ・ 盲点なことだったし、答えがわからない 難しいテーマでよかったから。
- ・ いろいろな問題も分類し、整理することで、支援のときも意識してもらいやすいと思います。
- ・ 合理的でよくわかりました。(2)
- ・ 具体的にしようと思えた。(3)
- ・ 今まで学習者の話したことの間違っているところをかみなりあれこれと指摘していました。これからはせいぜい一つか二つに絞ってやりたいと思います。

- ・ 支援者の側の問題(母語話者としての耳)に気付かされた。
- ・ 結局日本語教育も一つの外国語教育の考え方と基本は同じ言語に対する基本の理解が必要であると思った。

【9.10回目】

①印象に残ったこと

- ・ 吉野川市国際交流協会の取り組み JTMの取り組み
- ・ 皆さんの最後の感想がとても心に残りました。(2)
- ・ 制度面を少し知ることができた。・支援、共に生きることの大切さを改めて感じた。
- ・ 「場面設定」を考えること自体がむずかしいということ ・きちんと目標を設定し、できるだけぼって教え、たくさん練習させることが目標達成につながるということ (2)
- ・ JTMの歩みと活動をあらためて会長さんから聞いたこと
- ・ 教室での支援が社会につながっているということ
- ・ 人とのつながり、他団体のつながりが大事なんだということ。
- ・ 皆さんがとても熱心に日本語支援に取り組んでいること
- ・ 日本語学習で就職でき自分の居場所ができた。(田村さんの体験談)(2)
- ・ 吉野川の活動、日本語教室の様子がよくわかった。・兼松会長の自分で一番心に残った言葉を考えたこと。
- ・ グループで教案を作ったこと(2)
- ・ 時間との兼ね合いを考えて、教える内容をしぼりこむことが大切 発話を引き出すことができる工夫をすることが大切

②理由

- ・ 吉野川国際交流協会によってこれからの団体のあり方を教えられました。
- ・ 吉野川市国際交流協会の取り組みを知ることができた。受講者の皆さんの思いを知ることができた。(2)
- ・ 支援者も支援されている、お互いに助けあっているという考え方
- ・ 瀬尾会長の頼もしいエネルギーなざっばらんなお話にひき込まれた。
- ・ 実感がこもっていて、次のステップへの方向づけになると思うからです。
- ・ JTMに関わらせてもらって本当によかったなあと思えました。これからも私らしくがんばります。
- ・ 支援の大切さ、重大さに気づいた。
- ・ 人との輪が広がっていけば、それだけ外国人の支援にも広がっていくと思ったから。
- ・ 困っている人を助けるのはすばらしいことだけれど、実際はなかなか大変です。それをその場だけでなく組織的かつ学問的に毎年グレードアップしながら、行政にも働きかけ広報にも工夫をこらしながら継続していることはすごいことだと思います。
- ・ 日本語が使えることで人生が変わるという事例に触れたので
- ・ そんなことを考える余裕がなかった。振り返る機会になった。
- ・ 複数で一つの教案を作るのは難しいなあ・・・良い悪いではなく感じました。
- ・ 学習者にたくさん発言してほしいと日頃から思っています。

6. 今後、どのようなセミナーを希望しますか。

- ・ 評価の具体的な方法
- ・ 現場を見てみたい(日本語サロン)や他の活動を見学できれば勉強の助けになるでしょう。参考となるでしょう。
- ・ 国内における現状は少しは分かったが徳島県においてはどうか
- ・ 具体的に寺子屋その他でやる授業を複数の人で考えるような活用はわりと面白いし、学ぶことも多いのでは？すぐ使えるし。フィードバックもしやすいと思います。
- ・ 学習者を中国人とか英語圏の人に限定しての指導方法とかまちがいがしやすい所など
- ・ 音声指導のセミナー(2)
- ・ あと8回のセミナーが楽しみです。
- ・ 日本語指導者を増やすために、こういった日本語指導者養成(実際に役立つもの)を希望。(2)
- ・ このようなセミナーでいいと思います。充実感のあるものでした。(5)
- ・ もう一度嶋田先生のお話を聞きたい。

- ・実践に沿った講演(4)
 - ・教材作りや授業作りのワークショップなんか面白いかも。
 - ・まだよくわかりません。(4)
 - ・同じような日本語の現状スキルについての講座
 - ・講義を聞くだけでなく、ワークショップがミックスされてあるほうが「参加している」という意識がもてて楽しいと思います。ツブヤキ→外国の人も「富士山」「さくら」が好きなのだなあ。
 - ・国別文化的なこと。先生のおっしゃっていた文化スキーマの具体例をなるべくたくさん。
 - ・同じようなコミュニケーションに参考になること
 - ・やさしい日本語・ライト教材または是非ききたいです。やさしい日本語を書くのは意外と難しいですね。日頃から考える機会をもちたいです。
 - ・ワークショップなど(講義でお話を聞くだけでなく)実際にどう実践するか体験できるもの。・外国の方と実際に話したり交流したりしながら学ぶもの。
 - ・模擬授業
 - ・教えるににくい文法事項などをとりあげ、ティーチングプランをたて、実際にミニレクソンをしてみるようなセミナー/日本語を教えるにあたって身につけておく基本。(どういう順番でおしえるかなど)たとえば、ひらがなの教え方、カタカナの教え方、アクティビティーいろいろなど
 - ・日本語を教える教え方(初級、中級、上級 それぞれ教材を使って)
 - ・情報の伝え方をもっと考えていないと無理かも・・・と?でも、やさしすぎばかりもいけないしほどほどに使えるように考えながら勉強していきます。
 - ・新しい日本語教育/国語/英語教育の研究で注目されているものなどあれば、きいてみたいです。
 - ・もっと具体的に、拍、の教え方を学びたい、自分にとっても・・・(あいまいなので・・・)
 - ・カタカナ語は日本語のカタカナ語であることを意識する。お互いさま!! 残りました。
 - ・ますます外国人に教えられるきっかけに参考になることをいくらでも希望します。(3)
 - ・実際日本語教育がどのようにされているのかの場面などを視覚的教材が見たいがない
 - ・実践に役立つ内容がありがたいです。(3)
 - ・コミュニティー地域づくりという視点で日本語教育を再考できるようなセミナー
 - ・今後もやはり実践的なロールプレイをとり入れたものをやりたいです。ありがとうございました。また参加させていただきたいです。お世話になりました。
7. その他ご意見ご感想など、ご自由にお書きください。
- ・初参加でよくわからないままスタートしてしまいました。次回までに・・・
 - ・コピーの文字が小さすぎと思った。
 - ・JTMとくしまの方々の責任感あふれるボランティア意識、パワーすごいです。
 - ・あっというまの時間でしたが内容はぎっしりあってまだ消化できていません。今後の活動の中で具体的に生かしていこうと思っています。
 - ・ほんとうにすばらしい先生で、24時間講義をききたかったです。
 - ・嶋田先生は素晴らしいですね。
 - ・嶋田先生が本当に仕事を楽しんでおられて、生き生きとされていることからとても勇気をいただきました。「つながり」を作りそこから広がっていく深まっていく仕事なのだなあと感じます。
 - ・ちょっと、「できる日本語」のPR色が強かった。(かなと感じた)いいテキストであることがわかった。
 - ・とても内容盛りだくさんでしかも新しいユニークな視点から捉えたお話は参考になりました。今日学んだことを忘れないうちに、そしてこれから楽しい授業ができるよう工夫します。
 - ・先生を見習って、現状に満足しないで、自分で教材を発展させていきたいです。生活の中にあふれている音、文字、文章などをさがして利用していきたいと思っています。「わからないことを楽しむ」、目からウロコでした。ありがとうございました。
 - ・自分の中で常にテーマにしている内容でした。改めてふりかえる機会となりました。ありがとうございました。
 - ・毎回WS形式(参加型)のもので楽しめます。(3)

- ・美術館の楽しみ方がふえた。
- ・異文化ということよりも同じ星の住民たちという意識を大切にしたいと思いました。
- ・会の資料などを読んでちょっと正直来るのにちゅうちょしました。ついていけそうにない
- ・これからも有意義な講座を期待しています。(3)
- ・三隅先生の授業はいつも興味深く楽しいです。
- ・とても参考になりました。そして楽しかったです。ありがとうございました。(5)
- ・前回に引き続き日本語を外国語としてとらえる機会を持つことができとてもよかったです。参加できてとても有意義な時間を過ごせました。
- ・諸事情で1~6回を欠席してしまいすみませんでした。(こちら側の事情なのですが・・・)1・2回, 3・4回, 5・6回とまとめてしまうと1日欠席すると2回分が×になります。できれば土曜の午前または午後の半日ずつで月2回全10回にしていただけだと参加しやすいです。
- ・日本語を外国人に教えるときは、このセミナーを思い出して、気をつけながら誤解を生まないように教えていきたいです。
- ・コミュニケーションには文化や習慣などの共通認識が前提だが、それが少ないことが多い外国の人たちとのおつきあいにはやさしい日本語の果たす役割が思っていた以上に大きいことを教えられました。自分の日本語を見直すいい機会になりました。ありがとうございました。
- ・先生のお話は、発音がクリアで大変分かりやすかったです。具体的な話、事例も聞けましたが、もっといろいろ聞きたいと思いました。(2)
- ・音声指導はあれもこれも直そうとしないでその人にとって優先度の高いものを見極めてインテンションを持たせて練習させると同時に支援者もなぜその音になるかをよりよく知ることが大変よく理解できました。これからの音声指導が楽しみになりました。ありがとうございました。
- ・これからの自分の外国語学習の音声学習についても役に立つし、自分が指導するときにも役に立つと思いました。とても素晴らしいセミナーでした。
- ・先生が日本語指導を心から楽しんでいらっしゃる様子がとても心に残りました。
- ・たくさんの興味深いセミナー 受講させていただきありがとうございました。(17)
- ・”町内の近所の人”も”外国の人たち”のように思えます。
- ・10回のセミナー、どれをとってもたいへんよかった。同じものが重ならず、たいへんよかった。
- ・たくさんのことを教えていただきありがとうございました。これから、何かボランティアでも役立つことがあればと思っています。(3)